

2) グループ別ワークショップ「一宮市でこれからつくる自治基本条例への期待」

他市の自治基本条例の例を踏まえて、これからつくる自治基本条例で実現したい事柄をグループで話し合い、全体共有しました。以下のどのレベルで発言しても OK としました。

- ① 条例を作ることによって、一宮市がこうなる
- ② 条例に対して、自分としてこう関わりたい、行政がこう変わってほしい
- ③ 条例のなかに、こういった項目を入れてみたい

<発表>

1 班

- ① 「・・・一宮市がこうなる」
 - ・住んでよかったと思える一宮市。
 - ・誰もが、生きていてよかったと思える一宮市。
 - ② 「・・・自分としてこう関わりたい、行政がこう変わってほしい」
 - ・国や県に意見・要求を言える市になってほしい。
 - ・市会議員は議会ごとに議会報告をする。
 - ・町内会を真の意味での住民が協議できる仕組み（世代を超えたネットワーク形成）にする。
 - ③ 「・・・こういった項目を入れてみたい」
 - ・“まちづくりグループ”を住民自治協議会（伊賀市の制度）のようなところが支援するシステム（例えば、農家と消費者と一緒に地産地消を研究しているグループに、場所の確保・先進地視察旅費の支給等）
 - ・他にない、一宮市の特色を条例に入れてはどうか？ 例えば、市民投票。議会可決後に投票実施ではなく、市民の 1/10 の請求で即実施。
 - ・財政規律を維持する条項を入れる。具体的には、健全な財政状況のための数値目標を入れる。例えば、財政力指数。
 - ・主要な項目については個別条例を制定するという項目。制定しなかったら自治基本条例違反。
 - ・新しい計画や条例が自治基本条例に違反していないかどうかをチェックするという項目。
- 今後、20～30 代の方と意見交換する場はあるか？ まちづくりは未来を創造すること、若い世代の意見を聴くべき。
- ⇒ ヒアリング・タウンミーティング・フォーラムが機会となりうる。いずれにしても工夫が必要であろう。

2 班

- ① 「・・・一宮市がこうなる」
 - ・活力ある一宮市になる。
 - ・一宮市が活性化される。
 - ② 「・・・自分としてこう関わりたい、行政がこう変わってほしい」
 - ・財政の健全化。（これにより、“市民サービスの維持・向上” → “市民が暮らしやすいまち”）
 - ③ 「・・・こういった項目を入れてみたい」
 - ・議員日当制
 - ・家庭で生ごみリサイクル
 - ・起業を学校教育で
- } これらによって条例に独自性が出る。

3 班

- ① 「・・・一宮市がこうなる」
 - ・住みやすいまち。
- ② 「・・・自分としてこう関わりたい、行政がこう変わってほしい」
 - ・市民活動に参加する市民が増えるように、意義ある活動に財政支援。
 - ・皆が参加するために、町内会などの小さなコミュニティに関わる。
 - ・官民一体でこの条例でまちづくりを。
- ③ 「・・・こういった項目を入れてみたい」
 - ・まちづくりの主体者は市民。
 - ・借金を減らす工夫。
 - ・地産地消等の細かいことも含めたい。
 - ・他の条例と横並びでない条例。

4 班

- ① 「・・・一宮市がこうなる」
 - ・気軽に参加できるボランティア組織づくりが進む。
 - ・わかりやすいボランティア組織づくりが進む。
 - ・地産地消等による循環型社会の形成が進む。
 - ・個人の意見が尊重される。
 - ・公共交通機関（iバス、ふれあいバス等）が充実する。
- ② 「・・・自分としてこう関わりたい、行政がこう変わってほしい」
 - ・社会教育や子育て支援に参加したい。
 - ・行政は苦情に正しく応えてほしい。
 - ・だれもが参加できるように、ボランティア清掃活動を市が把握し調整。
 - ・だれもが出品できるような常設バザー会場を設置（例えばスーパーの敷地内）してもらい、（市に援助してもらうのではなく）その活動で自分たちの活動費を捻出。
- ③ 「・・・こういった項目を入れてみたい」
 - ・市会議員だけでなく、市民も直接意見が言える制度。